

校友会福島支部だより 第三号

発行 芝浦工業大学 校友会福島支部
事務局 喜多方市山都町中石打場3263
アドレス yamato.wanabe@nifty.ne.jp

支部長から会員の皆様へ

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

元旦に発生した能登半島地震。翌日の羽田空港の飛行機事故。誰もが明るい年になることを望んで迎えたお正月だったはずですが、昨年六月、豊洲キャンパス見学会を富山支部の方とご一緒しました。この震災の数日後、富山県支部の方に電話で被害状況を聞きますと、被災された方はいないとのこと。ですが、その後の校友会本部の調査で石川県支部の方で被災された方がいるとの報告があり、本部からのカンパ要請案内により、早速、福島県支部として応えました。被災された方々はとても不安な日々を送っていることと思います。支援と仲間の存在で、少しでも安心していただけたらと思います。さて、学生時代から社会人になると、真に心から頼れる人は少なくなります。現代は一人ぼっちになりやすい社会ではないでしょうか。半世紀、社会を生きてきた先輩として、校友会という組織を通じた交流により、少しでも先輩らしいことはできないでしょうか。

能登半島地震支援募金を送付

令和6年1月31日付けで校友会本部より、被災の石川支部への支援募金の案内が届きました。当支部でも、幹事の皆様の同意を得まして、支部会費より本部へ送金しました。石川支部の被災された校友生の方々が早く復興できることを願う次第です。
会員の皆様の「今日」から」



今回は、樋口

支部長から。

「楽しみな事」

2月中旬、

福島市の花見

山公園に行っ

てきました。

3月、4月の

桜の時期と比

べると少し寂

しい感じがあ

ります。頂上付近では「十月桜」が咲いていました。桜の花が香りと共に見事。途中、出荷準備の桜とサンシュユの鉢がたくさん置いてありました。「ご自由に」と書かれたバケツから桜とサンシュユ頂いてきました。



開花した桜の枝



サンシュユも開花

帰り道、いつもきれいな景色を見せてくれる北側の山の写真を撮って、桜の時期の写真と比べてみたら、やはり寂しい感じでした。

4月はピンクと黄色がともきれいです。もうすぐ、花が咲き乱れる時期がきます。楽しみです。

令和6年支部総会の開催は5月25日(土)

令和6年度福島支部総会は5月25日(土)に開催します。場所は郡山ビューホテルで15時から。

母校からの情報

芝浦工業大学「しばうら通信」から



箱根予選会のひとこま



詳細はこちら

箱根駅伝予選会

令和5年10月14日(土)に行われた第100回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会で、母校の駅伝部が23位(57チームエントリー)を記録しました。橋本章央選手(環境システム学科4年)が個人総合20位(日本人選手9位)の成績となり、チームを牽引する力を見せてくれました。今回の100回大会は関東以外の大学も出場可能となり、昨年から参加校が増えました。また、記念大会のため、駅伝本大会への関東学生連合チームとしての出場はありませんでした。



全日本大学駅伝選手権大会

さる令和5年11月5日に開催された、秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝校選手権大会で、日本学連選抜選手に選ばれた橋本章央選手(環境システム学科4年)が、1区9.5キロ(名古屋熱田神宮西門前→名古屋市港区藤前)に出場し、27分46秒の区間14位の成績を残しました。各大学のエースが集まる主要区間で素晴らしい走りを見せてくれました。今後駅伝部の活躍を応援したいです。



予選会のひとこま



詳細はこちら
スマートフォンで

有元史郎メモリアルコーナーを設置

母校芝浦工業大学は、令和9年に創立100周年を迎えるに当たり創立者の有元史郎とご家族の功績をたたえとともに、大学の歩みを紹介する目的とした展示施設を豊洲キャンパス内に設置しました。



完成お披露目会の様子



詳細はこちら

大学マスコットキャラクター決まる

令和5年11月2日、大学創立96周年記念式典で、公式マスコットキャラクター「テクしばくん」が任命されました。「テクしばくん」は同年7月に工学部のマスコットキャラクターとなっていました。イベント等で学生や教職員をはじめ地域の方々から人気が高まり、大学公式マスコットキャラクターへ昇格となったそうです。



任命式の様子



テクしばくん



詳細はこちら

学生プロジェクト、勿来で活躍

前回の「福島支部だより」で話題にしましたその続報です。今回は、勿来地区の子供たちとの交流を取り上げます。下の写真は、子供たちから土を使ったお城を作りたいという希望があり、学生プロジェクトメンバーや、地域の方々との協力を得ながら制作した作品です。(交流スペース勿来ツリーハウスの中)「お城」に見えるかどうかは個人の判断に委ねますが、大事なことは、その制作過程にある交流です。それを聞けば、立派な「土で出来たお城」に見えてきます。この活動では、敢えて、ゴールを決めず子供たちの発想に任せて、その日その日で予定を決めていたそうです。今回の

活動では、子供たちと土の中の微生物を顕微鏡で覗き、土の役割について勉強しました。その流れで、子供たちから土を使ったお城を作りたいという提案があったそうです。制作過程の写真を

見せて頂くと、そこには、お兄さんやお姉さん方と楽しそうに制作している子供達がいいます。そして、子供達には、遊びを通して、自発的な心が育まれることと思います。その他、同じ日に海水浴場の清掃活動や看板作りも開催されました。また、「勿来の関」でもトレイルも開催され、森の中を散策しながら、自然と親しみ楽しんだ模様です。学生プロジェクトのこのような活動を知り、若い方々のエネルギーを感じ、心温まる思いです。なお、詳しい内容は、校友会HPの福島支部にアップしてあります。



こどもたちとの交流の様子



詳細はこちら

芝浦びと 川柳コーナー(笑)

今回は「大学時代の苦い思い出」です。9月発行の支部だよりに掲載します。投稿くださった方に謝礼をお送りします。

編集後記

年明けの能登半島地震、東日本大震災を思い起こさせる被害でした。日頃の備えの重要性を学んだ年明けでした